

## 令和2年度第2回高知県職業能力開発審議会 議事概要

1. 日 時 令和2年12月9日(水)
2. 場 所 高知県人権啓発センター 6階 ホール
3. 出席委員 北川渉 筒井早智子 脇尾一仁 青木雄治 杉藤雄紀 田鍋進  
中山和恵 臼井裕喜 川上勲夫 川村進一 吉門文恵
4. 議 事 第1回職業能力開発審議会での主な意見とその対応について  
高等技術学校の広報ツールの強化について  
高等技術学校に関する調査等を踏まえた今後の方向性について  
高等技術学校の年齢制限見直しについて  
高等技術学校における新型コロナウイルス感染予防・拡大防止対策  
(9月補正予算)について  
第11次高知県職業能力開発計画策定スケジュールについて
5. 内 容
  - (1) 開会
  - (2) 商工労働部長あいさつ
  - (3) 第1回職業能力開発審議会での主な意見とその対応について  
高等技術学校の広報ツールの強化について
    - 事務局から説明
    - 質疑意見など(委員)

YouTube、Twitterが更新されていくことを期待している。YouTubeでは、閲覧中に差し込まれるCMでのPRが効果的なので、検討いただきたい。

(事務局)

ジョブカフェでも、YouTubeによる広告を行っているので、実績をふまえ、考えさせていただく。

(委員)

これまで、広報の必要性について訴えてきたが、改善がはかられ、積極的な広報を計画されているようで、良い取り組みだと評価させていただく。
  - (4) 高等技術学校に関する調査等を踏まえた今後の方向性について  
高等技術学校の年齢制限見直しについて
    - 事務局から説明

○質疑意見など

(委員)

幅広い年齢の方が技術学校で新たな技術を身につけ、就職するためにも、年齢制限の撤廃は賛成。

(委員)

これまでの説明を聞くと、ダブルスタンダードになっていると感じた。どっちつかずになってもいいのか、ということを考えさせられた。若者をターゲットとしながら、年齢制限は撤廃し、中高年にも入校してもらったうえで、充足率を高めたいというのはどっちつかずになるのではないか。考え方ややり方については、少し整合性をとる何かが必要である。その辺の考えがあれば、教えていただきたい。

(事務局)

もともと技術学校は新規学卒者をメインターゲットとした学校であり、若い産業人材を育てたいとの考えがベースとしてある。一方で、充足率がこのままでよいのかという課題意識があり、その中で、何かできないかというところでこのような検討をしている。現在、入校選考において、先に新規学卒者に限った推薦入試を実施しており、今後も新規学卒者に多く入校いただくよう、努力したい。その上で残りの枠については幅広い年齢の方にアプローチをしていくことになるが、学校運営として新たな課題も出てくると思うので、広報や選考の方法、訓練の仕方など考えていきたい。

高知校においては、30代の訓練生がここ数年、増えてきているが、若い訓練生とも仲良くしている。指導員と若い訓練生の間を取り持つなど、訓練が円滑に進んでいるので、こうした内容もPRに盛り込みたい。

(委員)

我々の意見に対する対応がしっかりできている。年齢制限については、何の考えもなく、充足させるためだけとなると良くないが、人口が減少している現状では、年齢制限の撤廃はおこなう必要があると考える。それから、30代で再就職を目指している方は、意識が高い方が多いので、そういった方が若い訓練生にアドバイスできればいいと思う。

また、配管科において電気工事士資格取得のカリキュラムの追加という話があったが、電気の資格を持っている方は少なく、電気の資格を取得することは有効である。

(事務局)

第2種電気工事士の資格については、今年度から中村校の住宅リフォーム科でも、受講できるようにしている。

(委員)

電気の知識については、ほとんどの職種で必要となるので、技術学校においても可能な限り、実施いただきたい。

年齢制限については、幅広に設定する趣旨は分かるのだが、入校生が増える見込みはあるのか。

(事務局)

最近、60歳の方から、木造建築科に入校できないかとの問い合わせがあり、やむなくお断りした。

人生100年時代をむかえ、平均寿命、健康寿命が長くなっており、今後は高齢の方でも働き続ける方が多くなってくることが予想される。課題もあるが、基本的な考え方としては、年齢制限を撤廃し、多くの産業人材を育成していきたいと考えている。

(委員)

ダブルスタンダードの話は、決して批判するものではない。これを高等技術学校の売りにしていき、若い方も年配の方も一緒に学び、技能を身につけることができる場所であることを打ち出していけば、弱みが強みになるのではないか。

当然、教える側は大変になる。若い方に対する教え方とある程度経験のある方に対する教え方は違ってくるが、これをうまくできるようになれば、どこもやっていない強みになるはず。是非、前向きに取り組んでいただきたい。

(委員)

採用側からすると、人材不足となっている状況の中、外国人を採用するなどしており、あわせて、それぞれの年齢にあった仕事を構えていくことも検討している。年齢制限は撤廃いただき、企業側としては、年齢に応じてできる仕事をしていただくという採用の仕方もある。できるだけ人材が欲しいという方が大きい。

(委員)

PRについては、学び直しを強調していくことも効果的。例えば、工業高校の電気科を卒業後、非関連企業に就職をしたが、やはり電気関係の仕事に就きたいと考えたときの学び直しの場ということになれば、よいのではないか。

(委員)

年齢制限の撤廃については、好意的・前向きに捉える意見が多かったと思う。それに

よる課題は出てくると思うが、実証しながらクリアして行っていただきたい。

(事務局)

PR方法を考える上で、学び直しの観点をふまえた議論をしたい。

(5) 高等技術学校における新型コロナウイルス感染予防・拡大防止対策（9月補正予算）について

○事務局から説明

○質疑意見など

(委員)

視察の際、改修が進み、以前見たときよりも明るい印象を受けた。経費がかかることだが、寮を見学に来た方がここに暮らしたいと思うような部屋が理想的。また、女子トイレが訓練場所と離れているので、配慮のうえ、できるかぎり設置いただきたい。

次の視察の際には、訓練生と話す時間を多くとっていただきたい。

(事務局)

訓練生と話す時間については、今後の機会の際には、検討したい。

今回の施設整備は新型コロナの交付金を活用し、整備するものになるが、女子トイレの新設については、実現できなかった。しかしながら、寮に女子更衣室を設置し、そこに、トイレとシャワー室を設置する予定のため、少し改善する形となる。

視察の際に委員のみなさまから、意見をいただいていた休憩場所の設置については、アウトドアで使用するテーブルセットを各科に1セットずつ配置。アイスの自動販売機については、業者から設置が難しいとの話があり、実現できていない。また、訓練生と指導員との話し合いの場を来年5月頃に実施したい。

(委員)

寮を個室化したことで、定員が減少することになるが、定員を超えた場合はお断りするののか。

(事務局)

現状として、家賃補助の仕組みがないので、そうなった場合はお断りすることになるが、個室化については、これまでの入寮人数を考慮しながらのものになるので、想定としては、定員以内で収まるのではないかと考えている。今後、訓練生が大幅に増えてくるようであれば、検討課題に上がってくる。

(委員)

視察で寮を見たが、環境が非常に悪い。入校生を確保したいということであれば、コロナに関係なく、改修する必要がある。今回の改修の出発点は、コロナなのか、どうなのか教えていただきたい。

(事務局)

老朽化の課題は以前からあったなか、国からコロナ対策の交付金が措置されたため、貴重な財源を活用する形で、コロナ対策に主眼をおいたうえで、両校の寮生の住環境の改善につなげるという両面の効果を狙いながら行った。一方でコロナ対策の交付金のため、すべてを改修することは難しい状況となっている。

(委員)

在校生で、近くのアパートなどを借りている方は多いのか。

(事務局)

ほとんどの訓練生が自宅からの通学または寮生であり、アパートを借りて一人暮らしをしている訓練生はほとんどいない。

(6) 第11次高知県職業能力開発計画策定スケジュールについて

○事務局から説明

○質疑意見など

特になし

(以上)